

## JENESYS2015 韓国高校生訪問団第3団

### 1. プログラム概要

「JENESYS2015」の一環として、「日本の魅力発見」をテーマに、韓国全土から選抜された韓国の高校生ら50名が、熊本県の学校訪問のほか、ホームステイ（天草市）や機関訪問等を通し、日本に対する理解を深めるとともに、滞在中、帰国後とSNS等を通して日本の魅力を発信しました（11月5日～11日）。

### 2. 日程

- 11/05（木） 到着（成田国際空港）、オリエンテーション
- 11/06（金） 【講義】熊本県の魅力について、歓迎昼食会、  
【視察】江戸東京博物館  
熊本県へ移動
- 11/07（土） 【視察】熊本城、天草市へ移動、  
天草市立天草ロザリオ館、大江天主堂  
【交流】ホームステイ
- 11/08（日） 【文化体験】着物着付け、茶道、生け花、日本舞踊鑑賞、炭坑節体験
- 11/09（月） 【学校交流】熊本県立牛深高等学校（授業体験、交流会）  
【視察】ショッピングモール
- 11/10（火） 【視察】  
真珠取り出し体験、上田陶石合資会社<高浜焼寿芳窯、上田家資料館>、  
福岡へ移動  
成果報告会
- 11/11（水） 帰国（福岡空港）

3. JENESYS2015 韓国高校生訪問団第1団 プログラム記録写真  
 韓国 テーマ：日本の魅力発見 訪問団の記録

|   |  |
|---|--|
|    |    |
| <p>11月6日 講義・熊本県の魅力について、くまモンも登場（墨田区）</p>   | <p>11月7日 熊本城見学（熊本市）</p>  |
| <p>11월 6일 강의 구마모토헌 매력에 대해서 구마몽도 등장 (수미다구)</p>                                       | <p>11월 7일 구마모토성 견학 (구마모토시)</p>   |
|   |   |
| <p>11月7日 ホームステイ 天草市長歓迎挨拶（熊本県天草市）</p>  | <p>11月8日 日本文化体験 茶道（熊本県天草市）</p>   |
| <p>11월 7일 홈스테이 아마쿠사시장환영사 (구마모토헌 아마쿠사시)</p>  | <p>11월 8일 일본문화체험 다도 (구마모토헌 아마쿠사시)</p>  |
|  |  |
| <p>11月9日 牛深高校訪問 ハイヤ節体験（熊本県天草市）</p>  | <p>11月9日 牛深高校訪問 授業体験（熊本県天草市）</p>   |
| <p>11월 9일 우시부카고교 방문 하이야 부시체험 (구마모토헌 아마쿠사시)</p>                                      | <p>11월 9일 우시부카고교 방문 수업체험 (구마모토헌 아마쿠사시)</p>   |

|   |  |
|---|--|
|  |  |
| <p>11月10日 真珠取り出し体験<br/>(熊本県天草郡苓北町)</p>  | <p>11月10日 上田陶石合資会社 訪問<br/>(熊本県天草市)</p>   |
| <p>11월 10일 진주꺼내기 체험<br/>(구마모토현 아마쿠사군 레이호쿠마치)</p>                                  | <p>11월 10일 우에다도석합자회사 방문<br/>(구마모토현 아마쿠사시)</p>                                      |

#### 4. 参加者の感想

##### ◆ 韓国 高校生

今回のプログラムでは、牛深ハイヤ節体験やくまモンのパフォーマンスを通して、地方の特色を生かした取り組みについて知る機会となった。

##### ◆ 韓国 高校生

日本に対して否定的な視点で見えていたが、訪日プログラムを終えて、このような私の視点が日本についてよく知らなかったためであったとわかり、私の価値観に大きな変化があった。日本人との交流が、日本という国への見方に大きな変化をもたらしてくれた。

##### ◆ 韓国 高校生

学校訪問で日本の高校生たちに会うと思ったらとても緊張したが、実際に会ってみて、私のつたない日本語で会話をしながら、牛深ハイヤ節をお一緒に踊り、短い時間であったが、友情を築くことができた。これから日本語をもっと勉強して、また再会したい。今回のような直接的な交流を通してこそ、人の心に深く記憶が残るのではないかと思う。

##### ◆ 韓国 高校生

ホームステイでは日本の家庭生活を体験し、本物の日本を感じる事が出来て、とても意義深いと思った。ホストファミリーや地域の人たちの考えや行動などからも韓国と同じ人情を感じることが出来た。

##### ◆ 韓国 高校生

学校訪問では、牛深ハイヤ節という日本の伝統的な踊りと日本の学生たちとの交流を通じて、韓国と似ている部分も発見し、親近感を感じた。また、ホームステイでは、日本の郷土色やホストファミリーのお父さん、お母さんのやさしさを感じる事が出来た。

##### ◆ 韓国 高校生

学校訪問はとても緊張したが、学生たちが温かく迎えてくれたので安心した。牛深ハイヤ節披露してくれた姿を見ながら、普段からたくさん練習を重ねたからこそ踊れるのだなと感じた。その後、実際に踊りを教わるときにも、動作のひとつひとつを熱心に教えてくれたので、私もそれに応えようと一生懸命について踊ったことが印象に残っている。

## 5. 参加者の発信内容

釜山日報 2015年11月28日付 16面 オピニオン記事

[청소년기자 광장] 韓日 중고생 '편견 없이' 한 발 더 가까이  
([青少年記者広場] 韓日中高生 “偏見なく” さらに一歩近づく)



▲ 2015년 한일 중고생 교류 방일단 70여 명이 지난 5일부터 11일까지 일본을 방문해 현지 학생들과 교류 행사를 가졌다.

(2015年韓日中高生交流訪日団 70名余りが、去る5日から11日まで日本を訪れ、現地学生たちと交流行事を行った)

지난 5일부터 11일까지 2015년 한일 중고생 교류 방일단 70여 명이 일본 연수에 나섰다.

한일 중고생 교류 방일 연수는 젊은 세대 간 교류와 상호 이해를 통해 한일 관계를 개선하기 위해 추진되고 있는 프로그램이다.

국립국제교육원과 일한문화기금의 주관으로 이뤄지는 이 프로그램은 홈스테이, 학교 방문, 각국 문화 체험 등 다양한 활동으로 이뤄져 있다.

이번에 연수를 간 방일단 제3단은 부산 대구 울산 경기 경북 지역 고등학생 45명과 경기 경남 지역 중학생 27명, 인솔자 8명으로 구성되었다. 중고생들은 같은 날 출국, 귀국하지만 일본에서는 다른 일정을 보냈다.

고등학생들은 '일본의 매력 찾기'라는 주제로 일본 박물관과 유적지를 방문하고, 다도나 곳곳이 같은 문화체험도 했다. 도교는 물론 규슈 지방까지 방문해 각 지역의 문화를 두루 체험해 볼 수 있어 다양한 일본의 매력을 느낄 수 있었다.

이번 연수에 참여한 박희진(부산문화여고 2년) 양은 "일본에 대해 갖고 있던 편견을 없앨 수 있었다"며 "늦선 우리들에게 정말 잘해 주셨던 홈스테이 할머니들에게 감사하다"고 말했다.

그는 또 "일본의 고등학교 친구들과는 아직도 연락을 하고 있어 펜팔 친구가 생겼다"며 "연수를 통해 일본어 실력도 늘고 한일 양국 관계 개선을 위한 방안을 생각해 보는 계기가 됐다"고 덧붙였다.

학생들과 함께 연수에 참여한 문성현 국립국제교육원 연구사는 "학생들이 부족한 일본어 실력으로도 대화에 노력을 기울이는 모습, 일본인들과 소통하려고 하는 모습을 보니 뿌듯했다"며 "특히 올해가 한일 국교 정상화 50 주년이라 더욱 뜻깊은 연수가 된 것 같다"고 말했다.

일본을 방문한 고등학생들이 우리나라를 일본에 소개하는 모습에 대해서는 "마치 45 명의 외교관 같았다", "미래의 리더를 미리 보는 것 같았다"는 평가도 나왔다.

올해 마지막 한일 중고생 교류 방일단 제 4 단의 출국일은 다음 달 10 일로 예정돼 있다.

박지하 청소년기자 부산국제외고 2년

(去る 5 日から 11 日までの間、韓日中高生交流訪日団 70 名余りが日本で研究を行った。韓日中高生交流訪日研修は、若い世代間の交流と相互理解を通じて、韓日関係のために進められているプログラムである。国立国際教育院と日韓文化交流基金の主幹で行われるこのプログラムは、ホームステイ、学校訪問、各種文化体験など多様な活動で構成されている。今回研修に行った第 3 団は、釜山、大邱、蔚山、京畿、慶北地域の高校生 45 名と京畿、慶南地域の中学生 27 名、引率者 8 名で構成されていた。中高生たちは同じ日に出国、帰国したが、日本ではそれぞれ別の日程を過ごした。高校生たちは、「日本の魅力を探す」というテーマで、日本国内の博物館や史跡などを訪問し、茶道や生け花のような文化体験も行った。東京はもちろん、九州地方も訪れ、各地域の文化を余すことなく体験することが出来、多様な日本の魅力を感じることができた。今回の研修に参加した、パク・ヒジンさん(釜山文化女子高 2 年)は、「日本について持っていた偏見をなくすことが出来た。出会ったばかりの私たちに本当に親切にしてくれたホームステイ先のおばあさんたちに感謝している」と語った。さらに彼女は「帰国してから日本で出会った高校生たちと連絡をとり、ペンパルとなる友達が出来た。研修を通じて、日本語の実力を伸ばすこともでき、韓日両国関係の改善のための方案を考えてみる契機となった」と加えた。学生たちと一緒に研修に参加した、ムン・サンヒョン研究士(国立国際教育院)は、「学生たちのつたない日本語力にもかかわらず、話そうと努力する姿や日本の人たちをコミュニケーションする姿をみてうれしかった。特に今年は韓日国交正常化 50 周年でさらに意義深い研修になったようだ」と語った。日本を訪問した高校生たちが、日本で韓国について紹介する姿について、「まさに 45 名の外交官のようだ」、「未来のリーダーを見ているかのようだ」といった評価も聞かれた。今年最後の韓日中高生交流訪日団第 4 団の出発は翌月 10 日の予定だ。

パク・ジハ青少年記者(釜山国際外国語高 2 年)

ほか多数あり。